

東日本旅客鉄道労働組合

東京都渋谷区代々木2丁目2番6号

JR新宿ビル13F 〒151-8512

Tel. 03-3375-5740 (代)

発行責任者 大熊勝明

# JR東労組

# 本部OB会

# ニュース

No. 161 2011年9月 発行

## 文化人・著名人らの呼びかけの

## 9・19「原発にさようなら集会」に参加しよう!

本部OB会も今日まで現役組合員の取り組みを支援し、各地の「脱原発集会」に積極的に参加してきました。また定期総会においても「子供達に安全で平和な社会を残すための脱原発をめざす特別決議」を採択し、取り組みを強化していくことを決めてきました。

「核・原発のない社会」をめざし、

本部OB会も今日まで現役組合員の取り組みを支援し、各地の「脱原発集会」に積極的に参加してきました。また定期総会においても「子供達に安全で平和な社会を残すための脱原発をめざす特別決議」を採択し、取り組みを強化していくことを決めてきました。

「憲法9条―世界へ未来へ連絡会」(9条連)でも署名活動が行われています。

JR総連とJR東労組は、この「さようなら原発1000万人アクション」の呼びかけに全面的な賛意を表すと共に、この二つの運動に参加することを決定しました。すでに各職場では署名活動が取り組まれています。

JR総連・東労組も全面支援を決定

この日訴えた「二つの脱原発行動」は、脱原発を実現し自然エネルギー中心の社会を求める「原発にさようなら1000万人署名」と9月19日に東京・明治公園で開催される「原発にさようなら集会」への参加を呼びかける内容でした。

この日訴えた「二つの脱原発行動」は、脱原発を実現し自然エネルギー中心の社会を求める「原発にさようなら1000万人署名」と9月19日に東京・明治公園で開催される「原発にさようなら集会」への参加を呼びかける内容でした。

## OB会は今こそ「脱原発」を態度で表そう!

### 「原発にさようなら集会」

- 日時 9月19日(月) 13時より
- 場所 東京・明治公園
- 主催 「さようなら原発1000万人アクション」
- 集会の規模 5万人(集会後、パレードあり)

福島第一原発は震災から六ヶ月を経ようとしているのに、事故収束の目途すら立っていません。先祖代々のふるさとを奪われ、仕事を奪われ、友情を育んだ学校にも通えず、家族がバラバラにされ、生活の基本をなすコミュニティが破壊しつくされました。放射能被曝を逃れようと、福島県民を中心に10万人にも及ぶ人達が避難生活を余儀なくされています。今こそOB会員は、原発事故への怒りを態度で表すために、首都圏近郊に住んでいるOB会員は「9・19 原発にさようなら集会」にこそって参加しましょう。

「爺から孫への贈り物、それは核と原発のない社会」をしつかり心に刻み、元気に都内を行進しましょう。

### JR東労組のOB会員の皆様へ

(株)鉄道ファミリーより、アフラックの「医療保険 新EVER」を昨年に引き続き9月20日より御案内させていただきます。ぜひ、この機会にご家族の皆様とともにご検討のうえ、お申込み下さい。(OB会員は団体割引です)

★お問合せ先: (株)鉄道ファミリー  
〒141-0031  
東京都品川区西五反田3-2-13  
フリーダイヤル 0120-49-8810

### OB声の広場

## 脱原発の輪を広げよう!

◇ 3月11日に発生した東日本大震災は、六ヶ月が経つというのに未だ復興のめども立っていません。政府は本場に被災者の立場に立つて復興に当たっているのか全く見えてきません。腹立たしい限りです。

◇ 福島第一原発に至っては、半径20km圏内の住民の皆様はいつふるさとに帰れるかも分らない状況の中におかれ、不安な日々を送っています。

◇ もともと原発は人間の手には負えない危険な代物であるということが、今回の事故で明らかになった。地震国日本において大事故を起こさない原発はあり得ないのだ。つまり「放射能を撒き散らす」というリスクを負ってまでつくる必要はないのだ。

◇ チェルノブイリと並ぶ深刻度「レベル7」に指定された福島第一原発は、皮肉にも唯一の被爆国である日本が、今度は加害国として日本国民を再び核の恐怖に叩き込んだ。

◇ 東京電力は、今回の原発事故に対して国民に何らの謝罪も行わず、隠蔽工作に終始している有様だ。8月1日、福島第一原発の1号機と2号機の間にある主排気筒付近で毎時10000ミリシーベルト以上の放射線量が確認され、どれほどの放射能が放出されたのか定かではなく、深刻な事態に至っている。

◇ 日本の原子力行政は中曽根康弘・正力松太郎によって築かれたと言われている。特に正力松太郎は、米国のCIAの意向を受け、膨大な資金力を投入し、マスメディアに「原子力の平和利用」を謳い上げるキャンペーン記事を流し続け、原発は新エネルギーの到来などと安全神話を国民に染み込ませ、原発建設の利権に群がる自民党経産省・電力会社が一体となって原発村を形成し、1970年3月に日本初の商業用軽水炉・日本原子力発電の敦賀1号機を稼働させ、それ以降核の平和利用を名目に次々と建設され、狭い国土の日本に54基もの原発が集中する異常事態である。

◇ われわれは福島第一原発事故を契機に過去の反原発の闘いが「核の平和利用」と「安全神話」に惑わされ、頓挫していったことの反省に立ち、今こそ脱原発を掲げる市民グループと連携して、脱原発の世論とうねりを創り出して、世界の子供達が、平和で安心して暮らせる社会の実現を目指して、現役の若い仲間と共に脱原発の輪を広げる運動を着実に定着させていかなければならないと考えています。

千葉地本・津田沼支部OB会(T・T)

### 東関東 西関東 ブロックOB会が要請行動

JR浦和電車区事件は、警視庁公安課がJR東労組破壊のために仕組んだ冤罪・弾圧事件です。2002年の逮捕・弾圧から8年10ヶ月が経りました。この間、不法・不当な捜査と理不尽な裁判によって、一審・二審とも何ら犯罪事実がないにも拘らず、不正な有罪判決が下されました。

私達OBは、この事件の狙いがJR東労組の破壊にあることを明らかにし、美世志会七名の無実を晴らして、早期職場復帰を勝ち取るために一貫して支援の闘いを取り組んできました。

**えん罪を晴らすOBの声を届け、  
最高裁・口頭弁論の開廷を迫ろう**

いま上京までの最終判断を前に、口頭弁論による審理と逆転無罪を求めて一五〇回を超える要請行動が取り組まれており、OB会も初めて西関東(7/29)と東関東(8/2)ブロックのOB会が要請行動を行いました。また大宮地本OB会も独自で要請行動を行なっています。

要請行動はOB会員にも出来る美世志会支援の有効な闘いです。近隣の地本支部も独自に要請行動を取り組み、OB会員の積極的な参加・協力をお願いします。



最高裁・要請行動に向かう西関東ブロックOB会の仲間達

#### <秋田地本OB会・第15回定期総会報告>

### 新会長に堀 等氏(中央支部)を選出

秋田地本OB会 事務局長 川守田 勝雄

秋田地本OB会・第15回定期総会が6月26日、秋田市・イヤタカ会館で55名が出席して開催されました。

松村会長は「大地震に遭遇した仲間への支援に感謝する。高齢者の生活環境改善に向け、退職者連合や地域の仲間と連帯しよう」と挨拶しました。有谷地本委員長からは「原発行政の見直し、浦電事件の上告審開廷の取り組み、故松崎明・角岸幸三両氏の遺志を引き継ぎ、運動を発展させるためにはOB会の協力が必要だ」と、激励を頂きました。

また本部OB会・大熊会長からは「被災者へのカンパ活動に感謝し、脱原発、の運動を中央・地方が一体となって取り組む」との決意が述べられました。秋田県退職者連合・小川会長からも「大震災の最も大きな禍根は原発事故であり、原点に戻った議論が必要だ」との挨拶を頂きました。

その後、経過と活動方針、会則の一部改正が提案され、討論に入りました。発言は時間の制約もあり、各支部1人に制限され、①高齢者の環境改善には、本部OB会や退職者連合との連携が必要だ、②義援金を取り組むにあたり、OB会員宅を訪問し理解を得た、③支部間交流を実施し、他支部の運動を学びたい、等の発言がありました。

その後、「脱原発を目指す特別決議」と総会宣言を採択しました。

役員改選では、14年間会長を務めた松村雄逸さんが勇退し、新たに堀 等さんを会長に選出した新役員体制を承認し、新会長の団結ガンバローで総会を終了しました。勇退された松村さんには感謝状が贈られました。



◆2011年度の役員体制は次の通りです。

顧問 松村雄逸 会長 堀 等 副会長 長谷川練悦  
副会長 石代 隆 副会長 本堂 侑 事務局長 川守田勝雄

#### <高崎地本OB会・第14回定期総会報告>

### 3支部除却を踏まえ、OB会活動の前進を!

去る6月25日、地本会議室において、高崎地本OB会第14回定期総会が開催されました。65名の参加者を得て活発な意見交換が行われました。

飯島会長は、冒頭の挨拶の中で、①念願の3支部確立の経過と取り組みに対する御礼、

②OB会生みの親、故桜沢地本副委員長、命を賭けて組織の確立と国鉄改革を成し遂げた故松下初代地本委員長の両名に報告し、共に喜び合うこと、③統一地方選で組織内候補2名の当選を勝ち取ったOBの底力をたたえ、④東日本大震災への物心両面にわたる会員の協力に感謝の意を述べました。

本部OB会から田中副会長・伊藤事務局長、高崎地本から山本副委員長がそれぞれに激励の挨拶を述べ、大震災後に被災地に入った報告の中で、自然エネルギーの破壊力の凄まじさと、言葉では言い尽くせない惨状を見聞してきたそうです。またカンパへのお礼の言葉もありました。

質疑では、4名の会員から発言があり、①原発事故に対して脱原発の世論が形成されつつあり、脱原発から反核・反原発へと闘いの質を高めて行くこと、②吾妻プロの仲間から、10年間の運動の総括を記した「10年中」発行と購読の呼び掛けがあり、③森ひとから「足尾の山を緑にす

◆2011年度の役員体制は次の通りです。

顧問 飯島徹夫 会長 関谷則之 副会長 堀口 昇  
副会長 新井 勇 副会長 花田 実 副会長 原 武久  
事務局長 春原芳雄



## エルダー社員の労働条件向上を!

千葉地本・千葉支部OB 新発田 正利

### 私のエルダー職場 紹介します

2009年9月1日、JRからTK(株)シエアール東日本都市開発へ出向しました。私たちエルダー社員にとって、この再雇用制度はJR退職後65歳まで雇用確保されるという点で、本当に良い制度だと思っています。今の職場に入り、もうすぐ2年目に入ります。

私の職場は、JRの土地を保守・管理する業務で、総武線の一部、京葉線の一部、金町線の一部、越中島支線を担当しており、巡回等が主な業務で、特に夏季の巡回時には汗の量が半端ではありません。職場にシャワー設備があるのですが、設置場所が離れていて誰も利用しません。以前は遠くてもシャワーを浴びに出掛けていたそうですが、勤務時間内の利用ということでは止めてしまったと聞きました。

また課長職でも役職手当が付かない(実態は自分の職務のほか、他テーブルの業務までまわっている)等の声があります。他の会社に出向したエルダー社員からも様々な不満の声が聞かれます。

千葉地本は、昨年10月と今年6月に「千葉地本エルダー組合員の意見交換会」を開催し、労働条件や職場環境などの問題点が多く出されました。

例えば、駅職場では最近「駅務長」という職名ができ、切符の販売のほかに、いきなり月報整理や物品要求等の業務まで一人でやらされておられ、運輸職場から来た人達は業務内容が解らず、困惑している状況です。また種々の機器操作等も含め、業務熟知のための必要な教育が全くなされておらず、配属当日に口頭で簡単に説明・指示される程度です。

またセキヨリティ会社の職場では、風呂場が共同使用のため入浴時間が重なること入浴できないことや各店舗の見回り巡回が主で月7回の徹夜業務は過酷だと訴えています。それから両替機が古いため機器故障が多いなどの苦情も出されました。会社による出向前の労働条件の説明と実際の職場での仕事内容が明らかに違うことが判明しました。

たが、出向先の職場で働く多くの組合員に勇気を出してもらい、厳しい労働条件や暗い職場環境を語り合い、不満や改善要求を解決するためにも、健康・ゆとり・生き甲斐を求めて、エルダー職場の交流活動を組織的に担っていきたくと思います。